

授業概要

認知心理学は、心の働きを科学的に明らかにしようとする心理学の分野である。本講義では、認知心理学の幅広い領域に関して、それぞれの領域を代表する基本的な理論・モデルを紹介する。具体的には、視知覚を中心に感覚・知覚の機序およびその障害について講義し、また、情報処理アプローチを中心に人の認知・思考などの機序およびその障害について講義する。授業では、知覚が推測によって成り立つことや、情報の選択（注意）、ワーキングメモリ、長期記憶、身体化された認知などについて、楽しく実感できるように事例をあげながら、認知神経科学を含めた人の情報処理について講義を進める。

授業計画

第1回	ガイダンス：授業内容について
第2回	認知心理学（感覚知覚・認知心理学）とは
第3回	知覚の基礎構造と基礎機能，その障害
第4回	かたちの知覚と知覚の恒常性
第5回	パターン認識
第6回	注意：注意の理論，選択的聴取，変化の見落とし，注意と意識，注意の障害
第7回	授業内試験と解説等（学習成果を測定）
第8回	記憶（1）：感覚記憶，ワーキングメモリ，
第9回	記憶（2）：長期記憶，潜在記憶，顕在記憶，記憶の障害
第10回	記憶（3）：日常記憶
第11回	身体化された認知：印象，判断，感情
第12回	認知と感情（1）：感情と認知の相互作用
第13回	認知と感情（2）：感情認知のプロセスとルート，感情認知の障害
第14回	知識の表象：意味のネットワークと活性化拡散，スキーマ
第15回	推論，意思決定と問題解決
第16回	筆記試験あるいはレポート

到達目標

- ・ 認知心理学にける基礎的な知識を学び，認知心理学の研究方法を理解する。
- ・ 日常生活の身近な問題に対して，習得した認知心理学的手法を適用することができる。

履修上の注意

- ・ 遅刻・欠席はしないこと。授業での質問や討論に積極的に参加すること。
- ・ 認知の働きについて，積極的に関連図書調べること。
- ・ 本講義は公認心理師を目指す場合に必須科目となります。

予習復習

- ・ 授業の進捗状況に合わせて配布資料などを参考に予習復習を行うこと。
- ・ 授業中に質問し，意見を求めたりして，予習復習の確認をおこなうことがある。

評価方法

・ 筆記試験あるいはレポートの内容を基本とし（50%），授業中の質問に対する解答，討論への参加度（50%）を考慮して評価する。

テキスト

- ・ 資料を配布するので，特にテキストは指定しない。参考書は適宜授業で紹介する。